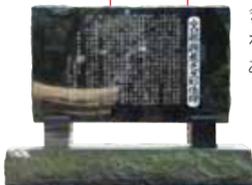




↑7月4日、宮部兄弟供養祭が上野地区の公民館上野分館で開催された。地域住民たちでつくる宮部兄弟顕彰会(川部寅男会長、46人)が主催。神事後、詩吟や剣舞を奉納して、郷土の先哲を偲んだ。

### 宮部兄弟供養祭



宮部兄弟顕彰会会長の  
川部 寅男 さん(上野・71歳)

宮部鼎蔵先生は日本を動かした人。上野地区に生まれたことは地域の誇りです。しかし、宮部先生の功績を語れる人が年々少なくなっていることが気がかりです。このままでは後世へと語り伝えられなくなるおそれもあります。そこで現在、上野地区有志で、保存会を立ち上げているところ。宮部先生にまつわる話や当地区の史跡を映像データとして残すことを検討中です。地域をあげて、宮部先生を後世へと伝えていければと考えています。



←「宮部鼎蔵先生彫像碑」。宮部兄弟顕彰会が平成17年6月建。この左側に宮部鼎蔵の像(表紙写真)があがめ建てられている。



御船町郷土史家  
奥田 盛人 さん  
(七瀬・90歳)

### 鼎蔵から学ぶべき信念と志の心 町全体で顕彰する心根を広める

宮部鼎蔵は、先祖宮部家の遺訓を守った人。鼎蔵の思想は「孝忠」の言葉にあります。親に「孝」、天皇に「忠」、この「孝忠」に尽きます。鼎蔵はこの言葉にはじまり、この言葉に終わったとわたしは結びます。忠実に家系に生きて、それが鼎蔵の一生。弟(春蔵)も一緒です。また、奥さん(えみ)へ宛てた手紙には、愛妻家でもあり子煩悩な一文があります。鼎蔵は、国を思い、熊本を思い、自分の郷土を思った人。生まれた時代は(江戸末期)幕末。幕末の動乱の中で、人が個人の名誉に走る時代にあつて、信念や志を持ち時代に忠実に生きていくことでした。

郷土(御船町)には、5人の先哲がいます。自分たちの地域から、このよう  
な天下国家を見つめて、働いて、命をすてたという人は鼎蔵だけです。この犠牲的な精神を学ばないといけません。さらに、このことを後に伝えるためには、鼎蔵を顕彰する以外にありません。公のために教育を家庭教育でも学校教育でもする。親を大事にする。家族を大事にする。公のためになるようなことが鼎蔵の思想につながるのではないのでしょうか。  
顕彰するためには、慰霊祭と顕彰事業は続けてもらいたい。慰霊祭は地元(上野地区)の人だけではなく、(御船)町民の人たちが鼎蔵を顕彰するその心根は広くあってもいいと思います。さらには、もう少し社会教育に結びつけ、生かしていく方法はないだろうかと思えます。

### 鼎春園

鼎春園は、阿蘇外輪山や大矢野原を見はらす絶景の大地をひらいて上野地区茶屋本につくられた。名前の由来は、鼎蔵と春蔵の頭一文字をとり命名された。



←鼎春園の中央に建つ「宮部鼎蔵顕彰碑」。高さ約5m、大正2年11月建。碑題は細川護成、撰文は竹添進一郎。

→「宮部鼎蔵顕彰碑」の左側に建つ宮部鼎蔵の歌碑。昭和18年10月建。積み上げられた碑台は宮部邸の礎石が使われている。また「宮部鼎蔵顕彰碑」の右側には弟・春蔵の歌碑が建つ。



いざ子供馬に鞍おけ九重の  
御階の桜散らぬそのまに  
増実

【参考文献】御船町史／御船風土記／郷土の先哲 宮部鼎蔵先生顕彰誌／伝えたい心 郷土の先達に学ぶ



←吉田松陰(1830-1859)。6歳で山鹿流兵学師範の吉田家を継ぎ、19歳で兵学師範として独立。21歳の時、諸国修行で九州や関東、東北、関西を遊歴。松下村塾を主宰し、久坂玄瑞や高杉晋作、伊藤博文らを育てた(萩博物館所蔵)。

### 天下大勢の京へ諸藩上洛

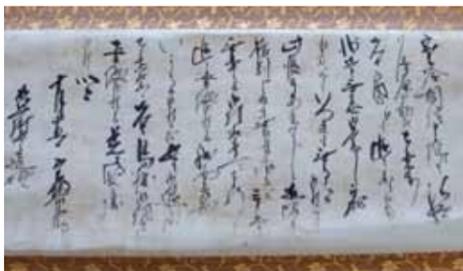
文久元年(1861)12月、出羽(山形県)の清川八郎らが肥後藩を訪問します。その手には、京(京都府)の権大納言中山忠能の家来・田中河内介の書状を携えて。目的は、鎮西(九州)の勤王計画でした。直ちに肥後勤王党の鼎蔵の耳に入り、会談の場が設けられます。ここで鼎蔵は、天下の大勢を見た上で議論すべきと立案。そこで、文久2年(1862)1月に上京。京では、清川の案内を受け、中山権大納言と面会。そこで初めて幕府の内情や京の情勢を知った鼎蔵は、急ぎ肥後へと帰国し、藩の同士を集め報告を行います。

このころ、公武合体派の薩摩(鹿児島県)も藩主・島津久光が兵1千名余を率いて、上京の途に就きます。遅れること、肥後勤王党にも勅命が下り、親兵が命ぜられます。鼎蔵ら肥後勤王党の親兵54名も上京。寺町御門守備や三条実美邸の警護にあたります。

しかし、文久3年(1863)8月、薩摩が攘夷派の長州を朝廷から追い出す「政変」が勃発。この時、肥後勤王党は長州と行動を共にし、七卿とともに鼎蔵も長州へと逃れたのでした。この戦いで、肥後勤王党の親兵は解散しますが、肥後勤王党はひそかに上京、再び長州の攘夷勢力の復活に尽力したのでした。

### 京都池田屋で襲撃事件

元治元年(1864)6月5日、鼎蔵をはじめとする肥後や長州の勤王党浪士ら20数名は京都三条の池田屋に集合。朝廷内に尊皇攘夷派の勢力回復を目指すべく密議がおこなわれます。この時、京都所司代・松平容保に知れ、三条の警護にあたった近藤勇率いる新撰組に襲撃されます。これが世に有名な「池田屋騒動」。浪士らは必死に応戦しますが、



↑宮部鼎蔵が母方の草野家へ贈った書。もてなしへの礼がしたためられている(草野征勝氏所蔵)。

手勢多数のため、浪士らは殺され、または召し捕らえられます。鼎蔵も戦いのさなか深手の重傷を負い、その場で自刃したと言ひ伝えられています。享年45歳。志半ばで波乱の生涯をここに終えたのでした。

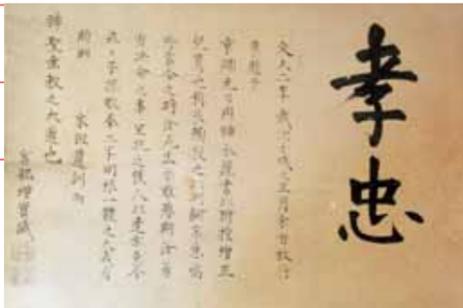
そして、鼎蔵が亡くなってからわずか5年後、日本は明治維新を迎えることとなります。

ここ御船町は、偉大な先哲、宮部鼎蔵を輩出した縁ある土地。幕末という動乱のさなか、国の行く末を案じ、そして自らの信念と志を高く持ち続けた鼎蔵は、今も尚、町民の誇りであることに違いありません。この地に生きるわたしたちは、鼎蔵の志を語り継ぐことこそ課せられた使命ではないでしょうか…。

### 決死の覚悟と揺るぎない信念 大勢がうごめく京へ鼎蔵上る

#### ●用語解説

- 〔大納言〕…太政官の次官。右大臣の次位。
- 〔七卿〕…朝廷に使える7人の公家。
- 〔所司代〕…江戸時代に京都の市政・検察の任務にあたった機関。
- 〔浪士〕…主家を去り、その禄を離れた武士。浪人。
- 〔朝廷〕…天皇が国の政治をとる場所。
- 〔明治維新〕…明治元(1868)年江戸幕府が倒れ、天皇を中心とする統一国家体制の成立が行われた近代的な改革。



↑文久2年(1862)1月、鼎蔵が京へ上洛する際に家にのこした遺書(七瀬中央小学校所蔵)。